



フィリピン

24 カビテ輸出加工区 開発事業

A

B

C

D

マニラから南方約30kmに位置するカビテ輸出加工区を整備することにより、工業インフラ不足の解消を図り、もって投資促進を通じてフィリピンおよび地域の経済成長に寄与する。

承諾額/実行額 40億2,800万円／33億4,500万円
借款契約調印 1991年7月
借款契約条件 金利 2.7%、返済30年（うち据置10年）、一般アンタイド
貸付完了 1997年10月



外部評価者 山下武（株）コーエイ総合研究所）
現地調査 2003年7月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りカビテ輸出加工区（約275ha）の未整備区画（第1～第5地区）において、道路や給水・排水・下水処理施設、配電施設等のインフラが整備された。また、当初は下水処理施設の建設のみが予定されていた第5地区では、需要の増加に対応して用地造成や道路、給水施設等が追加された。期間はほぼ計画通りで、事業費はインフレを上回る現地通貨の減価等により計画を下回った。本事業によって同加工区の入居企業数は1991年に65社であったものが、2003年には242社と約4倍に伸び、現在は入居待ちが生じている。また、02年の輸出量は95年の約2.5倍となった。このような加工区の発展は、地域の就業機会の拡大につながっており、03年5月現在で約7万2,000人（東京都国立市の人口は約7万4,000人）が雇用されている。さらに、本事業が呼び水となっ

て、地域開発が促進されており、89年にルソン島南部のカラバルゾン地域において操業を開始した輸出加工区・工業団地は、カビテ輸出加工区と民間運営の1カ所（ゲートウェイ工業団地）のみであったが、03年には合計28カ所にまで増加している。実施機関であるフィリピン経済区庁（PEZA）の技術および体制面は問題なく、財務面は良好である。

第三者意見

マニラに近いカビテ輸出加工区の立地条件や地方政府の積極的姿勢は、投資家をひきつけ続けるだろう。電力、水、廃棄物、輸送問題等の改善により、一層の発展が期待される。

有識者 Mr. Cesar E. A. Virata

ペンシルバニア大学修士課程修了（産業工学）。元首相。
現在C. Virata & Associates, Inc.会長・代表取締役。専門はファイナンス、行政。

カビテ輸出加工区にある工場



カビテ輸出加工区にある工場の内部



カビテ輸出加工区にある工場で働く人々

カビテ州の年平均人口増加率は、1995～2000年には5.45%であった。これは同期間におけるフィリピン全体の人口増加率より高く、失業率も、2000年において15.7%と全国平均である11.2%を上回っていた。カビテ輸出加工区は、2003年5月末において合計71,838人に就業機会を提供し、同州の雇用促進に貢献している。また、全労働者に占める女性の比率は64.9%と高く、女性の社会進出にも寄与している。